
魔法少女リリカルなのは 蒼天の雷鳴

暗剣殺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 蒼天の雷鳴

【Nコード】

N6671R

【作者名】

暗剣殺

【あらすじ】

突然死んで神様に土下座された主人公！主人公の運命やいかに！？
いいのかなあ、これで・・・。

プロローグ

突然だが、目の前に土下座している神様約一名いる。

「取り敢えず頭上げる」

神様「あ、すみません」

神が人間に土下座してるとかどんだけシユールなんだろうか。
取り敢えず状況の整理をしようじゃあないか。

「えーっと、あんたのせいで俺が死んだからお詫びとして別の世界に転生しようって話だよな？」

神様「その通りです。」

ナニこのテンプレ

神様「えーっと、転生先は、魔法少女リリカルなのはの世界です。」

おいおい、リリなのはの話なんて殆どしらねーぞ。

神様「じゃあ、いつてらっしやーい」

「おい！ちょっとまてー！！」

神様「大丈夫、デバイスはありますから。」

「そうゆう問題じゃねー！」

これから大丈夫なのか？

第一話「リリなのの世界に転生」(前書き)

主人公はチートではありません。

後、色んな意味でセンスありません。

第一話「リリなのの世界に転生」

side 俺

俺は、とある公園のベンチで座っていた。時刻は深夜

「ここは・・・海鳴公園？ん？なんか体に違和感があるぞ？」

なんか、目線が低い？おいおい、俺は15歳のはずだぜ？

「もしかしたら・・・。」

取り敢えずトイレにダッシュ！さらに鏡を見る！

「なんでさ・・・。」

いやホント、体は小学生くらいの大ささで目は青色で神は銀髪で背中くらいにまで伸びてる、さらにかなりのイケメンになってる。

「おいおいマジかよ・・・、いや、喜ばしいことだけどもさあ」

????「それは、神様の力のせいでは？」

「あー、なるほどー・・・って誰だよ!？」

なんか、めっちゃビビッたぞ！ナニこのザフトの歌姫みたいな声。

????「腕時計を見てください。」

ん？まさか、これがデバイス？

「……」そうです。まあとにかく名前の登録を。」

「心を読むんじゃないやねえ！しかもせつかちだなあ、オイ！」

うーん名前かぁ……、そうだ！

「コバルトってのはどうだ？」

「……」作者が、考えたものとはいえネーミングセンスありませんねー。仕方ないです。」

「メタいな、オイ！しかも歌姫なのに冷たい！」

まあこいつが言っていることも分かるけどさ……。

コバルト「それよりもマスター？」

「ん？」

何やら真面目な雰囲気……。

コバルト「どうやらマスターの名前も変えなければいけないようです。」

「……は？」

なんと言いやがりましたか？

コバルト「他の世界で前世の名前を使っではいけないそうです。」

おいおいマジかよ。

「んー、決めた！」

コバルト「速いですね……。」

「それほどでもない。名前はレオナルド・スターレン。んで愛称はレオで。」

コバルト「やけにリアルですねー。」

「まあな、さて！一度セットアップしてみるか！」

コバルト「そうですね、何事も慣れですからね。」

「そゆこと。じゃあ始めるぞ！」

俺は、黒い服とズボンにベルトに手首、肘、膝、足首に銀のサポーターのようなもの、胴体には銀の鎧、さらに、その上に蒼いコートを羽織る。武器は日本刀二本。

「でも扱えるかあ？」

コバルト「大丈夫です。魔力はSSくらいありますし、体もバリアジャケットなしでもどこぞの時間を止める吸血鬼みたいは身体能力がありますし、さらに体術、剣術の両方を自然に使えます。」

ナニそれ、めっちゃ頼もしいじゃねーか。

「あ、属性と術式は？」

コバルト「属性は雷が基本です。術式はミッドでもベルガでもありません。」

ん？と言っことは……。

「オリジナルなわけか……。」

コバルト「そうです。」

やっぱりか。神様なりのお詫びか……。でもチートじゃあ無いんだなあ。

「ま、そう言っことならいろいろ試してみるか。コバルト、結果。」

コバルト「了解です。」

その後、日が上るまでいろいろ試した。
これからどうなるんだろうなあ、俺。

第一話「リリなのの世界に転生」(後書き)

次から原作キャラが出ます。

それと、原作とは違う展開になるかも知れません。ご了承ください。

第二話「ええい！別世界からの転生者は化け物か！」（前書き）

原作キャラの口調が合ってるか心配です

第二話「ええい！別世界からの転生者は化け物か！」

S i d e レオ

コバルトの能力を試してわかったことは……

- ・ 魔導師ランクSくらいはある
- ・ オリジナルの魔法が使える
- ・ 体術、剣術は当たり前のように使える
- ・ 身体能力がかなり向上している
- ・ 金が約五十万円くらいあって、カードもいろいろ入っていること

「便利なのはいいけど、これからの生活を考えないとな。」

コバルト「そうですね。飢え死にしたら元も小もありませんしね。」

時刻は6時、腹減ったー。ん？公園でランニングする人が出てきたぞ？

「コバルト、お前は今から念話で話せ。確か地球には魔法文化はなかったからな。」

うん。確かそうだったはず。でもこれからランクオーバーSがホイホイ出てくるから怖い……。まあ、俺もその一人だけど……。
コバルト「了解しました。」

さあて、どっかのコンビニで何か買つか！腹減ったし……。

「うん。腹は起きた。」

取り敢えず、菓子パン二つほど食った。時刻は7時半、あれ？
今日は…………。

「今日は何月何日何曜日？」

コバルト（三月二十五日、日曜日ですマスター。）

なるほど、つまり今は春休みかなら午前中に外にでて大丈夫だな。
じゃあ次に…………。

「俺は何歳に設定されてる？」

コバルト（八歳です。）

つまり、次は三年生で魔王たちと同じ年というわけか。

「よし！そんなら午前中は街中の探索だ！」

それから俺は街中をとにかく歩きまわった。しかし…………。

「もうすぐ13時か…………。」

少しばかり歩き過ぎたらしい。

(もう少し時間の確認もしてください。)

やかましい。今日は別に時間のことはいいんだよ。ま、ま
た腹減ったしまたコンビニで飯買うか！

そうして俺はコンビニから飯買って食うのに一時間かった。
そろそろガキどもも集まってきだしたな。ん？おいおい、マジかあ
？

side out

sideなのは

魔王って言った人！こっちに来てO H A N A S H Iなの！
じゃなくて！私、高町なのはは大変なことになってるの！

アリスちゃんとすずかちゃんと公園に遊びに来ていたのだけど、
なんか怖い人達に話かけられたの！

怖い人A「よう、お嬢さん達、俺らと遊ぼうぜ」

怖い人B「いいから、俺達と遊んだ方が楽しいぜえ」

アリス「嫌って言うてるでしょ！汚い手で触らないでよ！」

アリスちゃんは強気だけど、すずかちゃんは怖がってる。この
ままじゃどっかつれていかれちゃうの〜！誰か助けてなの〜！

その時……

「おい、嫌がってるだろうが、離してやれよロリコン共」

私達と同じ年くらいの男の子が来たの。

side out

side レオ

「おい、嫌がってるだろうが、離してやれよロリコン共。」

俺はいきなり喧嘩売ってみた。自殺行為？んなわけあるか！何のための力だ！

ロリコンA「今なんつった、このクソガキ！」

「へっ！聞こえなかったのかよ？病院行ってこい。」

ロリコンB「調子のんなあゝクソガキいゝ」

喋り方がうざい。しかもがら空きだし遅い遅い。

「雑魚はすっこんでろ！」

俺が腹をおもいつきり殴ると「ウボア」とかいいながら吹っ飛んだ。気絶してるし。

ロリコンA「ふざけんなー！」

ロリコンAがナイフを出して斬ろうとした所を

ロリコンA「んな！？」

ナイフごと手を蹴った

ロリコンA「クッソオ！覚えてろ！」

ロリコン共は逃げていった。雑魚キャラのような台詞をはきながら。実際雑魚だったが。

おっと、逆に怖がらせたかな？

「大丈夫か？」

取り敢えずやさしく話かけた。

s i d e o u t

s i d e なのは

男の子はあつという間に怖い人達をやっつけたの！でもちよつと怖かったの。すると

「大丈夫か？」

やさしく話をかけられたの、何だか安心したの。
と、とにかく！

なのは「あ、ありがとうなの！私、高町なのは！なのはって呼んで欲しいの！-！」

アリサ「私はアリサ・バニングス。アリサで良いわよ。さつきは、その、……ありがとう／＼／＼」

すずか「ありがとう。私は月村すずか、すずかと呼んでね。」

「おいおい、礼を言うと同時に一気に自己紹介するなよ。」

男の子はちょっと困ってみたい……。

「えーっと、俺はレオナルド・スターレン。レオって呼んでくれ。よろしくな。」

なのは「レオ君だね。よろしくね」

s i d e o u t

s i d e レオ

お互いの自己紹介を終えた後、すずかが何か言い出した。

すずか「レオ君、何かお礼したいんだけど。」

「いや、いいよ。気持ちだけでzy」

アリス「あんだね、女の子の誘いを断るつもり？」

強引だなオイ！これは拒否権は無いと見た！

「ハア………。わかったよ。」

なのは「にやはは……ごめんね。」

しょうがない。ここはおとなしくついていくか……。

「あ、それと……。」

「「「「？」」」」」

ありがとうと言われて返す言葉を忘れてたな。

「どういたしまして」ニコッ

なのは、すずか「……………／／／／／」

アリス「~~~~っ！はやく来なさい！／／／／／」

「お、おい！引っ張るな！」

三人とも顔真っ赤だぞ。しかも怒られた？

コバルト（朴念仁……。）

こうして俺達は翡屋に行くことになった。

この後の惨劇を知らずに・・・。

第二話「ええい！別世界からの転生者は化け物か！」（後書き）

主人公はやっぱり朴念仁でした。

第三話「主人公VSシスコン」(前書き)

やっぱり出ました！シスコン！

第三話「主人公VSシスコン」

side レオ

俺は今シスコンと決闘している。もちろん木刀で。シスコンと言えば？

そう、なのはの兄、恭也さんである。

「だから！（カン！）なのは達とは！（カン！）今日！（カン！）知り合った！（カン！）ばかりですって！」

恭也「うそつけ！（カン！）」

「本当！（カン！）ですって！（カン！）」

さて、こうなった説明をしようじゃあないか。

なのは「ただいま〜！」

アリサ&mp;・すずか&mp;・レオ「おじゃまして〜す〜！」
美由希「お帰りなさい」

桃子「あら？男の子のお友達？」

あれが美由希さんと桃子さんか、ていうか桃子さん若！

「ええ、そうです。初めまして、レオナルド・スターレンと言います。レオと呼んでください。」

桃子「あら、礼儀正しくのね」

褒められて当たり前。だって前世の記憶をついでますから。

なのは「あ、あのね、私達公園で遊んでたら、誘拐されそうになっ
て・・・」

士郎& amp・恭也「「なんだと!?!」」

どっから湧いた。親バカにシスコン。

なのは「レオ君が助けてくれたの。」

士郎& amp・恭也「「そ、そうか」「」

さすが親子、仲良いね。そしてなのは、ナイススルー

美由希「なのは達を助けてくれてありがとう」

「いえいえ、たいしたことなかったです。」

桃子「お礼に今日はタダにするわ。」

「え？そんな悪いですよ。」

士郎「いいから、人の好意は貰っておくものだぞ。」

「はあ、わかりました。」

恭也「……………」

恭也さん、なんでそんな不信な目で見るんですか。

取り敢えず四人ともケーキを食べ終わりそれからしばらくしたところで問題が起きた。

「……………」

アリサとすずかが左右から腕を組み、なのはが真正面で頬を膨らませている。……………なんでさ。

コバルト（これだから朴念仁は……………）

コバルトがなんか言ったがスルーだ。

さあ、最大の問題がこれだからだ。

それは、なのはが爆弾発言したのだ。

なのは「なんで二人ともレオ君の腕を組んでるの!？」

アリサ「わ、悪い!?!?!」

すずか「早い者勝ちだよ?!?!?!」

なのは「レオ君は私の者なの!?!?!」

「……は？なんとはいやがりましたか？この魔王は。」

アリサ& amp; すずか「な、なにを言ってるの！なのは（ちゃん）」「」

「そっだ！何か言っやれ！アリサ！すずか！」

アリサ& amp; すずか「レオ（君）は私のものよ（だよ）！」

「フイフイフイ！」

「するとその時！」

「殺気！？」

俺はアリサとすずかの腕を振りほどき、後ろからの恭也さんの一撃を白刃取りで止めた。

恭也「貴様！なのはは渡さんぞ！」

「いきなり切り掛かってナニ言ってるの！？」

「思わず声に出してしまった。」

恭也「うるさい！道場に来い！殺してやる！」

「なんか物騒だよ！このシスコン！」

恭也「俺はシスコンでは無い！なのはが愛しくてたまらんだ！」

「つける薬ねーな！オイ！」

士郎「レオ君、やってあげなさい。どうやら君は腕は立つようだがらね。」

「士郎さん!？」

すずか「もう一度見てみたいなあ。レオ君が戦う所。」

「すずか!？」

なのは「あ、私も。」

「なのは!？」

アリサ「拒否権は無いわよ?」

「アリサ!？」

逃げ場を失いかけた俺は美由希さんと桃子さんに助けを求める目で見ると……最高の笑顔で手を振っていた。

恭也「はやく来い!」

そう言われながら俺は道場に連れて行かれた。

コバルト（お疲れ様です）

（俺の味方はお前だけだよ……）

そして現在に至る。

恭也「中々やるようだが、そろそろ本気を出させて貰う！」

まさか、神速!?

「ガキ相手に本気出しますか!？」

恭也「なのはの為ならば！」

「もういろいろ駄目だよこの人！」

恭也「行くぞ！」

速い!?!?!?!だが見える!

俺は恭也さんの神速を受け流し……。

恭也「なっ!?!？」

瞬間、俺は恭也さんに一撃を加え、気絶させた。

「ふう………なんとかなった。」

士郎「見事だレオ君、どうやって恭也の神速を見破ったんだい?」

「いや、無我夢中で覚えてないです。」

嘘、実は見え見えでした。

「いやあ、くたびれた。」

桃子「お疲れ様。」

美由希「見事だったよ。」

アリサ「すごいわね。恭也さんを倒すなんて。」

すずか「かつこよかったよ」

なのは「ホント、ホント！」

「元凶の皆さんがなにをおっしゃるか……。」

「アハハハ（にやはは）……）」

「ごまかすなよ畜生……。」

「こうして、高町家での」一つの惨劇は終わった……。」

コバルト（作者、出番を下さい。）

（我慢しろ、後メタイ）

コバルト(.....orz)

第三話「主人公VSシスコン」（後書き）

シスコンざまあWWW

一般人なら神速は殆ど見えません。ですが、レオなら身体能力のおかげで見えます。

魔法はしばらく出ません。コバルトごめんね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6671r/>

魔法少女リリカルなのは 蒼天の雷鳴

2011年10月8日22時43分発行